

平成28年度第1回教育改革ICT戦略大会運営委員会
議事概要

I. 日時 平成28年4月26日(火) 13:30~15:30
場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

II. 出席者 向殿委員長、濱谷副委員長、関委員、波多野委員、高木委員、島貫委員、友永委員、
木村アドバイザー、山崎アドバイザー
(事務局：井端事務局長、平田職員、竹苗職員)

III. 検討事項

今回は、前回の委員会に引き続き、平成28年度大会の開催プログラムの方針を検討した。

1. 平成28年度大会の開催プログラムについて

開催プログラムの方針として、アクティブ・ラーニングの効果と評価を中心にプログラムを組み立てることを確認した上で、二つのプログラム案について検討した。

(1) 9月6日の全体会

- ① プログラムの流れとして、最初は「大学教育改革の全学的な取り組み」をとりあげ、横浜国立大学の取り組みとして教員の科目編成から学位プログラムへの転換について紹介いただく。
- ② 次に「アクティブ・ラーニングの可視化と効果・検証」について取り組み事例ではなく、本問題を研究している京都大学の専門家からポートフォリオ、ルーブリック、IRなどの解説を行う。
- ③ その上で「アクティブ・ラーニング導入教育の振り返り」の取り組み事例について失敗事例も含めて東海地域の1大学から紹介いただく。
- ④ 次に新しいアクティブ・ラーニングの取り組み事例として、一つは「知識の活用を目指した地域・社会との連携によるPBL導入教育の取り組み」を信州大学から紹介いただく。二つは本協会歯学教育FD/ICT活用研究委員会で検討している「知識の創造を目指した新しい教育への取り組み」について、昭和大学より提案いただく。
- ⑤ 以上の流れを踏まえて教育の質的転換を総合的に進めていくには、入り口のアドミッションポリシーから出口の教育の質保証までのポリシーを一貫して行うための法令改正と高大接続改革を含めた内容について、日本学術振興会理事長の安西祐一郎氏から「大学における3ポリシー(入学選抜・教育・学位授与)法制度と高大接続改革」としての講演が考えられる。もう一案としての、「IoT(すべてのものがネットワークにつながる)時代の人材育成」をテーマに「新たな価値を創出するビッグデータの活用」について企業から説明を受け、その上で「大学教育での構想力・実践力の育成モデル」について、本協会情報教育研究委員会情報専門教育分科会から提案を行うことについては、教育の質的転換に向けた大学としての改革というプログラムの流れに沿わないことから取りやめた。

(2) 9月7日の「テーマ別意見交流」

- ① 全体会の話題を受けて2日目のプログラムについて検討した結果、午前中のAは「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの取り組みと課題」として、人文・社会科学系から「大人数授業での双方向型アクティブ・ラーニング」を小樽商科大学の事例を紹介いただく。医療系から「双方向性遠隔教育システムを活用したPBL教育」を岐阜大学から紹介いただく。また、理工系から「学修マネジメントシステムを用いた事前・事後学修」を東海大学に紹介いただく。

- ② Bは「教育を客観的に振り返るための環境整備」としてIR導入の取り組みと課題を中心に二つの視点から意見交流することにした。一つは「IR導入の現状と課題」として筑波大学の金子氏から解説をいただき、その上でIRの取り組み事例として日本福祉大学から「IRを活用した教育・経営改善」を紹介いただくことにした。
- ③ Cは「アクティブ・ラーニングの評価方法」として創価大学から「ルーブリック導入と課題」、帝京大学または摂南大学から「ピア評価導入と課題」、神奈川大学から「ポートフォリオ」を紹介いただくことにした。
- ④ Dは「価値の創出を目指した問題発見・解決思考の教育モデル」を情報リテラシー教育分科会を中心に意見交流することにした。

2. 今後のスケジュール

次回委員会の日程は、5月27日（金）11時とした。

以上